

原井の三則

- ☆場を清める
- ☆時間秩序を正す
- ☆人間関係を高める



第195号 令和4年
3月15日(火)
発行・原井小学校
TEL22-0863

三月に入り、めつきりと春めいてきました。卒業式を間近に控え、六年生には、残り少ない小学校生活をしっかりと楽しんでほしいと思います。一・二・三・四・五年生には、卒業生をしっかりと見送るとともに、原井小学校の伝統を自分たちが引き継ぐという自覚をもってくれればと思うところです。

メンタルヘルス教育プログラム



現代社会において、こころに大きなストレスを感じながら生活をしている人は珍しくありません。むしろストレスがないという人を探すほうが困難かもしれません。学校もその例外ではありません。大人はもちろん、子ども達もなんらかのストレスを感じながら学校生活を送っている状況にあります。このような状況ですので、子ども達や職員の方のメンタルヘルスをどのように保障していくかは教育現場における喫緊の課題とも言えます。

この度、原井小学校では、港町にある「社会医療法人清和会西川病院」の協力を得て、「メンタルヘルス教育プログラム」に取り組むことになりました。清和会より教育委員会を通しての打診があり、ストレスの多いこれからの社会を生きる子ども達にとって、とても有意義なことであると判断し受けることになりました。



「メンタルヘルス教育プログラム」がどのようなものかを、まずは教職員が理解するために、先日、清和会理事長の林輝男ドクターを講師として研修を受けました。そこで学んだことを紹介します。

- メンタルヘルス学習の機会を提供する理由
- ・ ストレスや悩みを抱えている子どもが、それを察知したり、対応する方法を知らなかったりするのではないかという懸念がある。
- ・ 大人の多くが、子どものストレスや

悩みに対応するための知識を十分に持つていないのではという懸念がある。このような懸念を解消するために次の様なことが必要ではないかというこ

- ・ こころの問題全般の知識
- ・ こころの問題をもつ子どもがいた場合の対応
- ・ メンタルヘルスリテラシー教育についての知識

この他にも、不登校とその要因(無気力・不安)にこころの問題が存在しているということ。精神障がい若年発症が圧倒的に多いということ。精神疾患は誰もがなるかもしれない病気であるということ。そして何よりもショックを受けたのは、子どもたち自身、そして我々教員が心の問題に気づくことが遅れるために問題が深刻化することをやわらげることができたかもしれないということ。



心の問題について考えるとき、我々は間違った一般認識にとらわれることがあります。林ドクターによれば、次のような誤解があるそうです。

- ・ 感情の弱さによる(71%)
- ・ 誤った親の養育による(65%)
- ・ 本人の責任、自分の意志で克服でき

- る(45%)
- ・ 治らない(43%)
- ・ 罪深い行為の結果(35%)
- ・ 生物学的な基礎があり、脳が関係している(10%)

このような間違った一般認識にとらわれることなく、早期に問題を発見し、早期に相談するための「メンタルヘルス教育プログラム」です。

私たち教員は、子ども達のこころの問題を解決するための専門家ではありません。しかし、目の前の子どもがこころの問題で困っているのであれば、何とかしたいと考えます。だからこそ、専門家である医療機関と協力し「メンタルヘルス教育プログラム」の開発に努めるのです。

この度、こころの問題の専門機関より、学びの場を提供していただけることについては、感謝の気持ちでいっぱいです。どの学年を対象とするか、どの程度の時間をかけるか等については、これからの相談になります。令和四年度よりプログラムをスタートさせます。この取組が、子ども達の明るい未来にきつと役立つと信じて疑いません。



最後になりましたが、原井小学校の教育にご支援・ご協力いただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。

